

杉山孝博Dr.の

オンライン開催(Zoom)

認知症の 理解と援助

認知症ケア
専門士単位

3単位

研修講座



講座内容

認知症の特徴、家族の変化、初期段階のとらえ方、認知症をよく理解するための9大法則・1原則、対応の困難な症状と対策、徘徊とその対応、若年期認知症、治療と予後・予防、グループホームをめぐる動き、特養ホームにおける終末期医療、新たな地域ケアサービス、小規模多機能ケア、グループホームでのターミナルケア、「家族の会」について



日時

2024年 1月21日

午後1時～午後4時30分

(Zoom入室は正午より)

開催

オンライン開催(Zoom)

申込



参加申し込みはオンラインのみ受け付けます。
QRコード先のGoogleフォームでお申し込みください。

<https://forms.gle/B8H2xvbCgHLWAqos9>

参加費

- 一般3,000円 ●「家族の会」会員2,000円
- 学生1,000円

税込み、
資料代含む

- 振込口座 ゆうちょ銀行 (金融機関コード 9900)
- 加入者 シャ) ニンチショウノヒトカゾクノカイカナガワケンシブ
(社団法人認知症の人と家族の会神奈川県支部)
- 口座記号番号 00210-4-48522
- 他行からの振込
店番 029 / 預金種目 当座 / 店名 O二九店 (ゼロニキュウ店)
口座番号 0048522

- ・正会員、賛助会員の団体については、参加者1名のみ 会員価格。
- ・ご送金を頂いた受講料は返金できません。

講師 杉山孝博

すぎやまたかひろ

「家族の会」副代表理事、神奈川・川崎幸クリニック院長

1973年東大医学部卒。81年「家族の会」神奈川県支部発足に関わり、現在は支部代表も務める。往診・訪問看護を中心にした在宅ケアに取り組み、「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」を考案、普及。グループホーム協会顧問や厚生労働省関係委員としても活躍中。

定員 100名

申込期限 2024年1月18日(木)

(申込期限にかかわらず定員になり次第締め切ります。)

連絡先

神奈川県支部

月・水・金 10:00~16:00

TEL/045-548-8061

〒221-0825神奈川県横浜市神奈川区反町3-17-2
神奈川県社会福祉センター5階

主催/



公益社団法人
認知症の人と家族の会

〒602-8222 京都市上京区晴明町811-3 岡部ビル2F
TEL(050)5358-6580 www.alzheimer.or.jp

共催/

公益社団法人
認知症の人と家族の会 神奈川支部

後援/

一般社団法人
日本認知症ケア学会
神奈川県

認知症の理解と援助

公益社団法人認知症の人と家族の会主催

講師プロフィール

杉山孝博 (すぎやま たかひろ)



社会医療法人財団石心会（せきしんかい）理事長。川崎幸（さいわい）クリニック院長。1973年東京大学医学部卒。東大付属病院で内科研修後、患者・家族とともにつくる地域医療に取り組もうと考えて、1975年川崎幸病院に内科医として勤務。以来、内科の診療と在宅医療に取り組んできた。1987年より川崎幸病院副院長に就任。1998年9月川崎幸病院の外来部門を独立させて川崎幸クリニックが設立され院長に就任し、現在に至る。現在、訪問対象の患者は、約80名。

1981年から、公益社団法人認知症の人と家族の会の活動に参加。全国本部の副代表理事・神奈川県支部代表。公益社団法人日本認知症グループホーム協会顧問、公益財団法人さわやか福祉財団評議員。

認知症グループホームや小規模多機能型居宅会の制度化や、グループホームなどの質の評価の委員会などの委員や委員長を歴任。

著書は、杉山孝博著「マンガでわかる 認知症の9大法則と1原則」（法研）、杉山孝博監修「親の認知症に気づいたら読む本」（主婦の友社）、杉山孝博監修「認知症の人の不可解な行動がわかる本」（講談社）、杉山孝博監修「認知症の人のつらい気持ちかわかる本」（講談社）、杉山孝博著「認知症の9大法則 50症状と対応策」（法研）、杉山孝博著「イラストでわかる 高齢者のからだと病気」中央法規、「介護職・家族のためのターミナルケア入門」（雲母書房）、杉山孝博編「認知症・アルツハイマー病 介護・ケアに役立つ実例集」（主婦の友社）など多数。

新聞連載

1995年4月～96年3月毎日新聞に「杉山Drの在宅ケア1, 2, 3」を毎週連載

2009年4月～10年3月全国20地方紙に「知ってますか？認知症」を毎週連載

2014年11月～15年4月しんぶん赤旗日曜版に「知っておきたい認知症」毎週連載

監修・出演した映画「認知症と向き合う」（監督 保母新之助、脚本 松島恵利子、企画・制作 東映映画(株)教育映像部、DVD、上映時間 30分、2016年9月発売）は、認知症によく見られる症状、家族の混乱、認知症の人の思いと家族の気持ちの変化、症状の理解、介護者の交流の大切さなど、認知症をめぐる様々な問題を、誰にでもわかりやすく理解できると好評である。文部科学省特別選定。平成29年度教育映像祭にて最優秀作品賞（文部科学大臣賞）受賞（社会教育部門）。

詳しくは、インターネットで「杉山孝博」で検索、あるいは「川崎幸クリニック」⇒「院長のご挨拶と杉山医師の在宅医療のご紹介」で閲覧することができます

例えば、「絵で見て学ぶ 高齢者のカラダ」「知ってますか？認知症」「認知症の人への服薬介助の工夫」「認知症と自動車運転」「認知症と病名告知」「認知症の早期診断、医療機関受診のための工夫」「認知症と入浴拒否」「胃瘻についての考え方」など

講座の内容

厚生労働省研究班の発表では間もなく700万人の認知症の人がいるといわれる現在、認知症は誰にとっても身近な問題となりました。重要なことは、認知症を正しく理解すること。講師が工夫した「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」などを知ること、認知症の人の世界や家族の変化がわかるようになります。認知症の人の「異常な言動」は決して異常ではなく、同じ状況になればだれもが行う言動にすぎないと知ること、介護する人の気持ちが変わります。「BPSD に対する具体的な対応」「最新の認知症治療」「重度化とターミナルケア」など、認知症に関する幅広い知識が得られます。「目からウロコ」の体験を、あなたもどうぞ！

「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」とは

「記憶障害に関する法則」。認知症の人の記憶障害には「記銘力低下」「全体記憶の障害」「記憶の逆行性喪失」と呼ぶ3つの顕著な特徴があります。「記銘力低下」とは、ひどい物忘れが起こることです。認知症の人が同じことを繰り返すのはそのたびに忘れてしまうからです。大きな行為そのものの記憶を失ってしまうことを「全体記憶の障害」と呼びます。「記憶の逆行性喪失」とは、記憶が現在から過去にさかのぼって失われていく現象。「その人にとっての現在」は最後に残った記憶の時点となります。

「症状の出現強度に関する法則」とは、認知症の症状が、いつも世話してくれている最も身近な介護者に対してひどく出て、時々会う人、目上の人には軽く出ることをいいます。

「感情残像の法則」とは、感情の世界はしっかり残っていて、瞬間的に目に入った光が消えたあとでも残像として残るように、認知症の人がその時いだいた感情が相当時間続くことをいいます。

聴講者に大きな反響（講座聴講者のアンケートから）

- * 「認知症をよく理解するための9大法則・1原則」が分かりやすく、担当のご担当者に当てはまりました。
- * 昼夜逆転や入浴拒否などのケースを基に、具体的な「対応」と「言葉掛け」の仕方がとても参考になりました。
- * 最新の治療薬と副作用を知ることが出来ました。
- * 病院の患者さんに認知症の方が増えてきており、今日の講義を聴きまさにピッタリの内容で悩みが解決できスッキリしました。
- * 事例を基に対処を教えて頂き、今まさに困っている認知症の方に当てはまりました。
- * 徘徊や異常行動に対して対症療法的な対応ではなく、「どのようにしてそのような行動を取るのか」を、その方の人生から振り返ることで解決策が見いだせることを知った。
- * 「何もしないこともケア」ということを知り、今まで「何かをしなければ！」という思いにより、逆に認知症状を悪化させていたことに気づきました。
- * 急性期病院から在宅まで経験が豊富で、現実的な対応方法が理解しやすかったです。